

子育て中のママたちへ



両親学級からのママ友との語り。長男長女は、一年生になりました。

街角特派員レポート MACHIKADO REPORT No.192

家族も地域もみんなで育児。だからママは元気です。

子育て中の母親の視点から浅海優子さんが、レポートに取り組んでくれました。

私は、邑楽町に住んで9年目になります。今は、小学生と幼稚園入園前の子育てで、中学生と幼稚園入園前の出産と育児は慣れない土地での出産と育児は家族だけでなくママ友と地域の人との交流がなかったらやっつけられなかったと思います。保健センターの両親学級や、子育て支援室などで出会ったママ友と町内対抗女子バレーボール大会に参加したことで町民体育祭にも毎年声がかかり、子どももども、地区の人に顔を覚えてもらえました。近所を散歩すれば挨拶だけでなく会話も弾み、育児が楽しくなりました。幼稚園にあがる3歳までは短いようで長くもあり、いろいろな施設も利用してきました。これから育児を始めるママたちや、邑楽町へ越して来たばかりで不安なママたちへ、私が経験してきた中で感じたことや、お世話になった支援のことなどをご紹介してみたいと思います。



街角特派員 浅海 優子 (秋妻・17区)



←インタビューする街角特派員の浅海さん
街角特派員 街角特派員は、一人が年2回「広報おうら」にレポートを掲載。町づくりへの意見や気になる事業の進捗よく状況、自分が皆さんにアピールしたいことなど、突撃取材と歯に衣着せぬ直言で、皆さんの「そこが知りたい」に答えます。

Check! 保健センター

お母さんたちのコミュニケーションの場として保健センターは利用できないの？



町保健センター センター長 久保田 裕さん

保健センターでは子どもが生まれる両親を対象にした「両親学級」、「乳幼児の離乳食相談」、そして0歳〜3歳の間で健診を行っているそうです。

じ月齢の子どもが集まり、ふだん会えないママたちとの貴重な交流の場にもなります。健診以外にも保健センターを利用できないか伺いました。例えば、予防接種について保健師さんの話を聞きつつ、ママさんの意見を交換する場としての使い方は、久保田センター長のお答えは「健康に関わる内容で、交流の場を持ちたいと自主的な声があり集まれば、施設の利用は可能」とのことでした。

健診はもとより、子どものことでも聞きたいことや相談してみたいと思っていることを話す機会を持てるように、もっとゆとりと保健師さんとママ同士の交流が持てるように、その日一日を健診の対象の親子に開放してはどうですかと提案してみました。

「育児をするお母さんたちのコミュニケーションの場として、保健センターの利用を考えてみることもできますね」というお話でした。



両親学級のようす



Check! 児童館

午前中は利用できないの？



児童館を管理運営している役場福祉課 阿部昌弘さん 新島方枝さん

児童館は小学生が下校後に保護者の迎えを待つ間に利用したり、家が留守になる児童が夏休みや土曜日にお弁当を持って利用したりするための施設です。ですが、未就学児も施設を利用していることを知っています。午前9時から午前中の間、保護者同伴ならば、使用することができそうです。

児童館の利用については「自由に使い続けるためには、モラルを持って使用していくことが大切ですね」というお話をお聞きしました。次に、児童館での飲食について尋ねてみると、「留守宅児童以外のお弁当は現状では認めませんが、町としては子育て支援センターとの両立も含め、ルールなどを決めたいうえで、検討していきたい」とのことでした。午前中の利用率について聞いてみると、現在のところさう多くないこともわかりました。同じ子育て中の両親や祖父母が足を運ぶことが出来る施設は安心して過ごせ、安全な場所でもあります。天気に左右されず、幼児を遊ばせられて、ママ友たちの交流の場の一つにもなると思います。



ママ友と北児童館で会いました。

保健センター 児童館の利用

公共施設を利用できないか取材



子どもたちと一緒にクラブの練習に行くのが楽しみです



石鍋 美佐さん (明野・34区)
菜歩ちゃん(写真左)と晴人くん

3年前、夫の転勤の関係で邑楽町に引っ越してきました。学生時代バレーボールをしていたので、いつかはプレーしたいと思っていたのですが、まだ子どもも小さいし夫の帰日も遅いので、趣味にするのは無理かと思っていました。友達の勧めでウイングに入り、今では子どもと一緒にクラブの練習に来るのが楽しみになっています。チームの雰囲気も最高です。



関口 愛さん (前原・4区)

アットホームな感じのウイングが好きです

「産後のダイエットに運動したい」と思いウイングに入りました。もともと体を動かすことは好きだったので、バレーボールはまったくの初心者。でも、メンバーの人たちがいい人ばかりで、何よりアットホームな感じでチームにすぐ馴染むことができました。練習中、子どもたちは主人が見ていてくれます。バレーボールを始められたのも、主人の「やってみなよ」の一言があったからです。



●インタビューしてみた感想
ママだって、時にはスポーツでリフレッシュしたいのです

「子育て中だからスポーツが得意な人」と思っていたという言葉に、うなずく思いでした。幼い子どもを預けて練習に向かうには、サポートしてくれる家族と、協力してくれる子どもたちの理解が必要なのです。でも、主人の「やってみなよ」の一押しで一步を踏み出した関口さんや、子どもたちが体育館では

かメンバーの子どもたちと遊ぶことを楽しみにしている石鍋さん親友のように、家族ぐるみで参加している姿は、クラブに明るいきわもたらしてくれています。二人とも「スポーツがしたい!!」と思ったその時、ウイングに出会えたことを本当にうれしそうに語ってくれたことが、とても心に残りました。

子育て中でもバレーボールがしたいと思ってる!!
邑楽町は、町内対抗女子バレーボール大会や町内クラブ対抗女子バレーボール大会、ミセスバレーボール大会など、バレーボールが盛んだと改めて実感しています。バレーボールの経験があるなしに関わらず、楽しむことができるのが邑楽町のいいところだと思います。そんな邑楽町には、年間を通して練習しているバレーボールクラブも近隣の町に比べて数多くあります。

私は、「子育て中でもスポーツがしたい!!」と思い「ウイング」というクラブに入りました。子どもが1歳を過ぎたころから、練習日の2時間は家族に子どもを預けて、ありがたくバレーボールを楽しんでいます。メンバーの中には小学生以下の

子がいるママも多くいるので、体育館に子どもを連れて来ています。子どもたちは、地区や学年を問わず一緒に遊んで、高学年が低学年の面倒を見てくれます。大会の時は、ママたちの頑張る姿を子どもたちがしっかりと見て応援してくれるのです。子どもたちは、地域のみんなに育てられている。だから、ママも元気えられるんだと思います。



Check! スポーツを通して、地域に溶け込む

地域に溶け込むきっかけづくり

ママさんバレーボールチームでの交流が子育てにも役に立つ。

私の所属するバレーボールクラブ「ウイング」は、子育て中のメンバーも多く、子どもを連れて来る人もいます。地域の人に子どもの名前も覚えてもらい、交流につながり、子育てにも役に立っています。



メンバーの子どもたちは、地区や学年を超えて一緒に遊んでいます



お母さんがんばって!

クラブチーム「ウイング」を取材



七福神めぐりで 福来たる。 町おこしの秘策



文化財や豊かな自然を感じながら、邑楽町の魅力を再発見してもらおうと、上州邑楽七福神を愛する会の主催による七福神めぐりも来年10周年を迎えます。今回の特集では、七福神めぐりで町おこしにつなげようと活動している上州邑楽七福神を愛する会の皆さんへの取材を通して、その秘策に迫ります。



邑楽 みんな
みんなに、
ありがとう

・・・これからもどうぞよろしく。

みんなに支えられているから育児ができる。きつとママたちは、こんな気持ちをもっていきます。どうぞ、地域のみなさん、あたたかい目で見守っててください。
取材にご協力くださったみなさま、たくさんの笑顔をどうもありがとうございました。
街角特派員 浅海優子